

工賃アップを目指せ

進和学園の窓口会社が就業支援団体に

市内上吉沢の農業技術センターの脇から小道を上ると、閑静な緑地に囲まれた大きな工場に突き当たる。

この工場は、社会福祉法人「進和学園」(出縄明理事

長)の授産施設、「しんわernet」の作業服に身を包むのは約百人の知的障害者で、ホンダ車に搭載される部品が、急ピッチで組立加工されている。本田技研



ホンダ車の部品の組立作業

工業(株)に納入される部品は約3百種、月間平均で約2百万点に上るといふ。1年間に生産されるホンダ車のうち、約111万台にこの部品が搭載される計算だ。

工場内には17の生産ラインが敷かれ、流れ作業で組み立てられた部品が、手際よく出荷ケースへと納められていた。夕方にもなると、各ラインのボードに掲げら

れた1日の目標数字が、次々と達成されていく。

生産ラインは全て、本田技研の技術者から「お墨付き」を受けて稼動。各ラインには、障害者の軽い従業員

が品質担当として配置され、製品に目を光らせる。昨年にはISO9001を取得し品質管理を徹底。福祉工場でQC活動の取り組みがなされるのは異例だ。

昭和49年から始まった本田技研との取引は、株式会社「研進」(出縄貴史代表取締役社長)が、窓口会社として仲介役を果たしてきた。9人の社員が進和学園の授産事業について、企業との

受注契約や資金調達、在庫管理などを請け負い、商社のような役割を担っている。研進は先月、厚生労働省

から「在宅就業支援団体」の指定を受けた。障害者の就業支援を促す制度で、同学園に一定額以上の発注をすると、企業側に国から報奨金が支払われる仕組みだ。支援団体の認定は県内初。

企業側が学園に発注を依頼する誘引にもなりそうだ。

進和学園は食品や工芸品なども幅広く製造していることから、同社では自動車部品にとどまらず、こうした商品全般についても販売を促進していくことで、同学園の利用者に支払う工賃を増やしていきたい構えだ。

市内高根の「サンメッセしんわ」のクッキーやパンも進和学園自慢の品。本田技研本社の売店に陳列されているほか、今年からはミドリ安全(株)との取引も開始された。誕生日を迎えた社員に配るクッキーを、毎月受注しているという。

また、平塚駅ビルラスカ1階で催されている「ウィークリースイーツ」の企画に乗って、6月4日から10日にかけてブースの開設を控えるなど、市内向け販売についても促進をはかる。

「障害者の平均工賃は一般的に月1万5千円程度。これが4万円以上になれば、障害年金と合せて暮らしても安定するのでは」と、研進の出縄社長は指摘していた。